

Market Report

2025年4月号



インドネシアのFFB生産実績

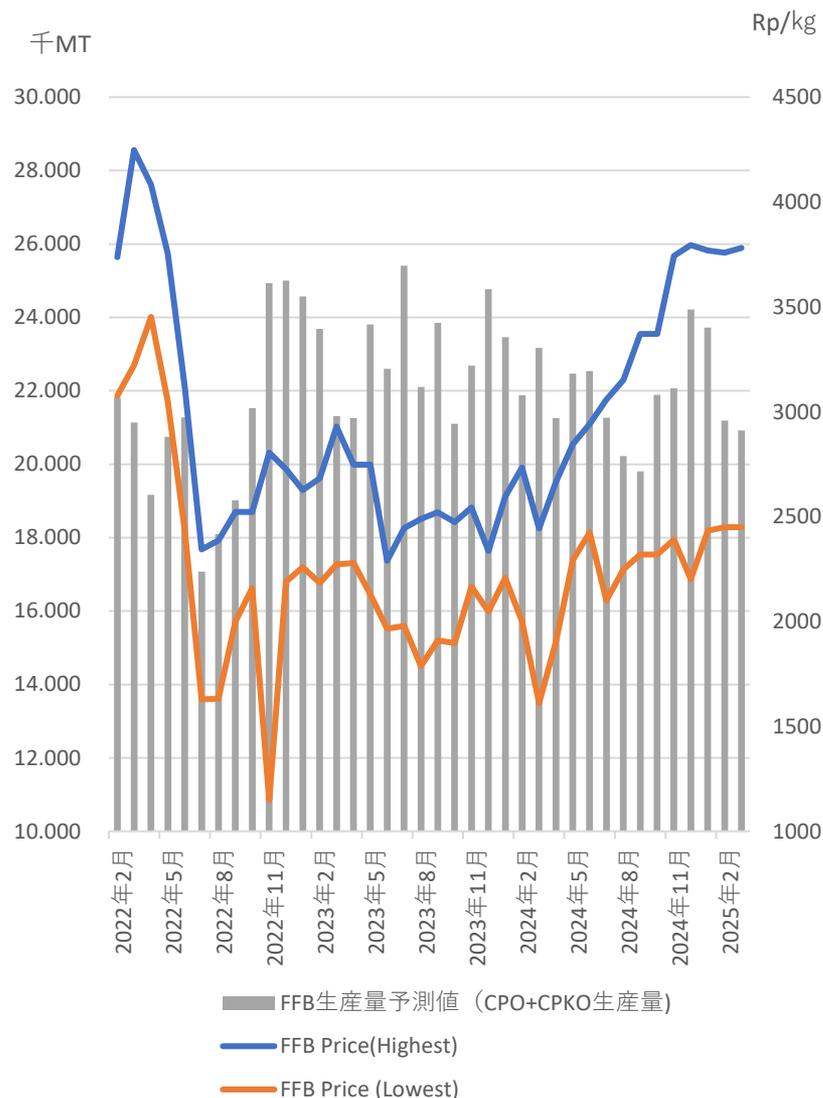
1. 実績

2025年3月のインドネシア国内22州での作付年齢10~20年の平均FFB価格は3,197Rp/kgであり、前月の1月より約2%価格が上昇している。3月中の最高価格は、西スマトラ州で3,781Rp/kg、最低価格は、南スラウェシ州で、2,450Rp/kgであった。

2. FFB生産量予測

2025年からパーム椰子を栽培している零細農家の樹齢の高齢化や、高齢化したパーム椰子の植え替え等で、FFBの生産量がおちるとみられている。依然、雨期に入っておりFFBの生産性が制限されやすい状況が続いている。

インドネシア国内のFFB価格(最大・最小)
パームオイル生産量から推定されるFFB生産量



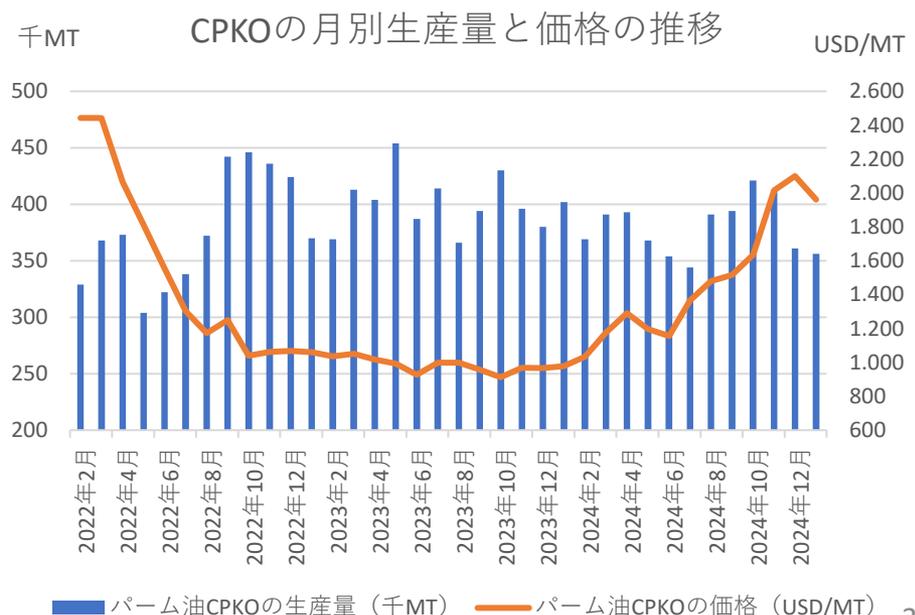
インドネシアのパーム油CPO及びCPKOの生産実績

1. 実績 (CPO)

CPO (CIFロッテルダム) の平均価格は2025年2月の1,227 USD/MTと比較して2025年3月は1,250 USD/MTとなり、23 USD/MT (前月比で約2%) 増加した。また、2024年3月のCPO平均価格1,071 USD/MTと比較すると、179 USD/MT (前年比で約18%) 増加した。

2. 実績 (CPKO)

CPKO (CIFロッテルダム) の平均価格は2025年2月の1,947 USD/MTと比較して2025年3月は2,063 USD/MTとなり、116 USD/MT (前月比で約6%) 増加した。また、2024年3月のCPKO平均価格1,177 USD/MTと比較すると、886 USD/MT (前年比で約75%) 増加した。



インドネシアからのPKSの輸出量及び輸出額実績

1. PKS輸出実績

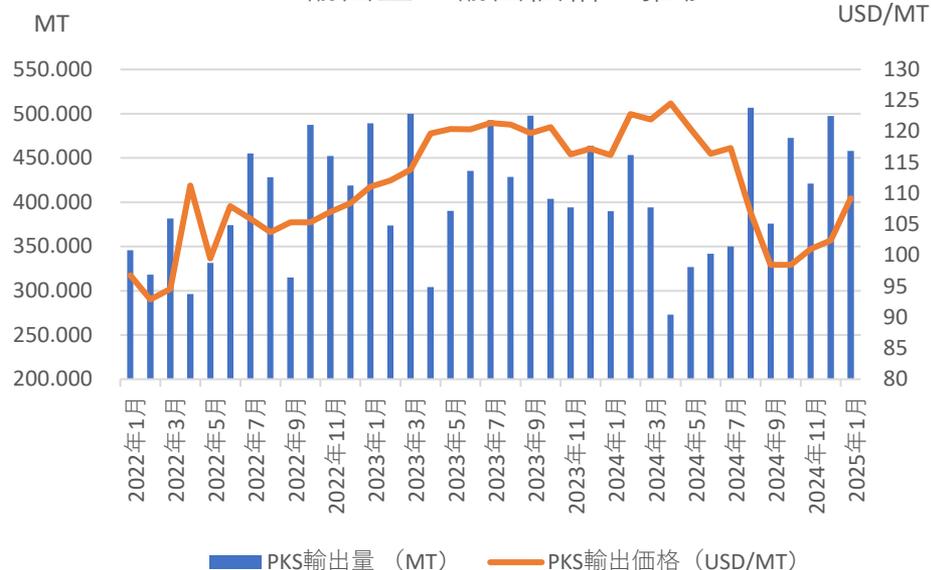
2025年1月のインドネシアのPKS輸出量は、457,983トンとなり、2024年12月の輸出量497,317トンと比較すると39,334トン（前月比で約8%）の減少となった。

前年2024年1月のPKS輸出量389,881トンと比較すると、2025年1月の輸出量は68,102トン（前年比で約17%）増加した。

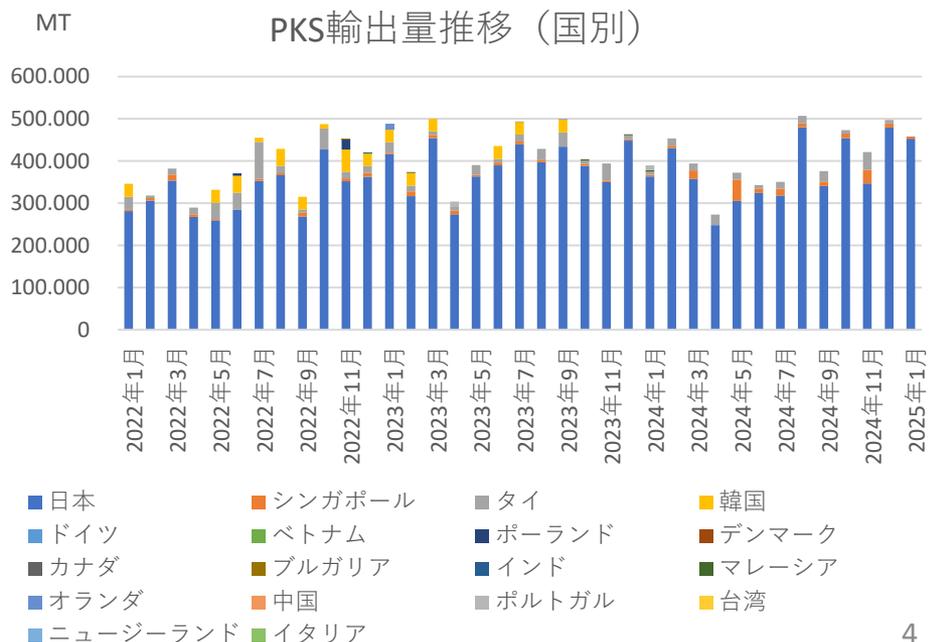
2025年1月のPKS輸出額は50,012,097USDを記録した。

2025年1月最大の輸出先は日本であり、輸出量は452,982トン、外貨換算額は49,581,990USDを記録した。（日本へのPKS輸出量は、インドネシア全体の輸出量の約99%を占める）日本への輸出量を12月の輸出量478,770トンと比較すると25,788トン（前月比で約5%）の減少となった。

PKS輸出量と輸出価格の推移



PKS輸出量推移（国別）



FFB、CPO、PKS、インドネシア国内施策の見通し

1. FFB価格、CPO価格の見通し

-4月以降に乾季に入るまでは、雨期の影響でFFBの生産が減少する見込みであり、FFB価格の下げ要因は見当たらず、価格の高い状態が続くと予想される。

-パーム生産国であるインドネシアがB40のバイオディーゼル(CPO:40%、軽油60%の混合燃料)の販売計画に伴い、CPOの輸出能力が減少する見込みとなっている、そのため、FFBの収穫量が増加しない限りは、FFB、CPOの価格は引き続き、上昇の傾向が続くと見込まれる。

2. PKS価格の見通し

昨年10月に、大きくPKSの輸出量が減少し、PKSの価格も下がった。その後、輸出量が回復傾向にあり、PKSの価格も上昇している。雨期により、PKSの発生量が下げ基調であるため、PKS需要が価格へ影響することが予想される。

3. インドネシア国内の政策

パーム生産国であるインドネシアがB40のバイオディーゼル(CPO:40%、軽油60%の混合燃料)の販売計画に伴い、国内CPOの需要が高まっている。

また、エネルギー分野では、尼国のエナジーミックスの目標達成のため、EFB、Fiber、Frond、OPT等のPKS以外のパーム残渣が今後注目されていくと思われる。